



小松市教育長
坂本 和哉

● 思春期の心の葛藤

「思春期」とよく言われますが、少年期から青年期に向かって大人への脱皮、つまり「自立」に向かって子ども達はもがきます。その中で、自分以外はすべて束縛者と感じてしまうことがあるようです。特に大人への不信は大きくなりがちで、親や家族とも一定の距離を置くようになります。また時には友達さえも負担と感じ、自分の世界、自分だけの空間に固執しようとしたりもします。

自分の存在の不安定さに気づき、自分の体と共に、場合によっては自分自身の心も「束縛者」のように思うことさえあるようです。心の変化と体の変化のアンバランスが蓄積し、葛藤の中で、目的の見えないもどかしさを感じてしまうようです。それによって代償行為や、短絡的・衝動的な行動をとったりもします。はしかのようなもので、一過性ではありますが、人によって長さは異なり、数日で過ぎて行く子もいれば、数年かかってしまう子もいるようです。

そのような時期に家庭で取り組むことは、生活習慣の安定を保ち日常生活に引き戻してやることです。悩みそのものには直接触れなくても、生活のリズムの中で心の安定を図り、そのうえで将来に夢を持つように仕向けることが大切です。

また親自身が、子どもと共に自分も育てるということも意識してみるとよいのではないのでしょうか。子どもが成人する時を想定して、子どもの自立と親自身の自立「子の親離れ」「親の子離れ」をすすめて行くことです。子どもの年齢に応じた適度な距離を保ち、干渉しすぎず放任しすぎずの関係を作って行くことです。近年多くみられるのがこのバランスを欠いた過保護・過干渉、あるいは極端な放任です。

家庭の中で子どもに対して同意と否定の役割分担をし、それは人による分担でも時間による分担でもよいのですが、適度な距離を保って行くことが大切ではないのでしょうか。そうして子どもが育った後の自分の「豊かな人生」を親自身が考えて行くことが大切だと考えます。



小松市立学校PTA連合会
会長 鹿田 稔夫

● 自らの心を耕す！ ～未来の宝のために～

昨今、いじめや不登校、家庭での教育力不足、そして通信媒体での誘惑・勧誘など子ども達を取り巻く環境はさまざまな問題を抱えています。経済の変化に伴い、生活環境についても比較のしようがない程変化しています。今の子ども達にとっては生きることそのものが困難のように感じます。

このような問題に対応するには、経済対応型の教育をする前に、まず人としての心を育てることが大事だと考えます。そのためにも私たち大人は、親がはじめに教えるべき躰や礼儀などの家庭教育や地域で子どもを育てる社会教育のさらなる充実を図り、そして良き手本となる背中を見せ、子ども達と共に生きることが大切だと思います。また、家庭・学校・地域との連携協力をさらに深め、一体となって教育にあたる支援体制の確立にも積極的に関わる必要があるのではないのでしょうか。そうすることで、未来の宝という子ども達が、すべてのものに感謝する気持ちを持ち、思いやりの心にあふれ、生きていることの素晴らしさを知って、さらに一回り大きな子どもに育ってほしいと願ってやみません。



第55回 小松市PTA研究大会

日時◆平成24年8月5日(日) 場所◆こまつドーム集会室



今回で55回目となる小松市PTA研究大会が今年度も開催されました。和田市長をはじめ多くのご来賓の方々にもご来場いただき、それぞれの担当校の活動報告が発表されました。開会式におきましては、日頃からPTAの活動や子ども達の健全育成に努められた方々への表彰も行われました。研究発表では向本折小学校育友会・南部中学校育友会・第一小学校PTAの3校が学校と家庭そして地域のことを考えた活動や思いが発表されました。大会の後半の講演会では、アットマーク国際高等学校長の髭與志雄氏をお迎えし、「いちど転んでみよう」というテーマで数々の体験談を交えてお話して頂きました。会場は多くの保護者と教育関係者により盛況に開催されました。



講師：髭 與志雄氏
(アットマーク国際高等学校長)



◆小松市教育委員会表彰状

澤田 幹子
池田真理子

◆小松市立学校PTA連合会会長感謝状

〈個人〉

岡山外茂吉 (犬丸小学校)

北橋 信男 (犬丸小学校)

柏田 一夫 (能美小学校)

〈団体〉

稚松小学校 図書ボランティア

ひまわりさん (稚松小学校)

向本折小学校

研究大会発表を終えて

向本折小学校育友会 会長 本造 秀一

8月5日(日)こまつドームで、小松市PTA研究大会が開催され私たち向本折小学校育友会は「～学校・家庭・地域が協力し心の豊かな子どもを育てよう～」をテーマに、発表を行いました。

私自身PTAのことが何も分からないまま会長という役につき、その年にこの研究発表会を迎えることとなり、少し戸惑いました。ですがこれはきっと自分を成長させてくれるチャンスと捉え、強い気持ちで取り組むことにしました。

この活動の中で私は、豊かな心についていろいろと考えました。ネットで調べてみると「美しいものに感動し、常に生きることの喜びと感謝の気持ちに満ち、明るく、前向きに、たくましく生きようとする心」と、書いてありましたが、なかなか理解できませんでした。でも、この活動を進めていくうちに、少しずつわかってきました。それは、研究発表を成功させるために、先生や役員の皆さんと一緒に考えたり、話したり、助け合ったり、笑ったりと、皆さんと共に頑張り協力していくことで、心が温かくなってきました。これが豊かな心なのかなと・・・

今回、発表の中で子ども達がエコキャップ運動を通して得た感想を入れさせて頂きました。ご来場の皆様には、きっと子ども達の心の成長を感じ取っていただけたと思います。

最後になりますが、この研究発表を無事終わることが出来たのも、役員・先生・保護者の方々の協力があってこそと思います。本当にありがとうございました。



南部中学校

「第55回小松市PTA研究大会」を終えて 南部中学校育友会 会長 西村 祥治

南部中学校育友会では、「絆」～家庭・地域・学校の協働～をテーマとし、研究発表を行いました。本校育友会では、家庭・地域・学校の三者が「協働」することにより、校区全体の「絆」が深まり、その結果、子どもの健全な育成に結びつくと考え、積極的な活動の推進に努めています。また、学校が地域及び家庭と連携を図るための「つなぎ役」として、重要な役割を担う立場にあるとも考えています。

これらのことから、主な育友会活動についての取り組みでは、育成委員会による「保護者全員登校指導」や、保健厚生委員会による「学校保健委員会」では、保護者や地域の方がパネルディスカッションや寸劇に積極的に参加しました。また、教養委員会による「親子で漢字検定」では、生徒の学力向上を目指し、これまで継続して取り組まれてきました。いずれも、テーマに沿った活動が行われており、これも、前年度の各活動に少しずつ修正を加えてきた結果であり、充実した活動が展開され、各活動が根付いてきています。育友会活動とは、保護者と生徒が共に考え、共に活動できることが大切であると実感しました。地域の絆としては、南部地区青少年健全育成協議会は、南部地区の子どもの健全育成の中心であり、学校教育の地域・家庭への発信の場にもなっており、育友会では、今後も連携を深め、充実した育友会活動が展開できるよう、より一層の支援をお願いしていきたくと思います。以上のことから、昨年度以上に「絆」を深められるよう三者が「協働」していきたくと考えています。今回の研究大会を通じて、育友会活動に対する共通の理解を深めて頂けることができ、大変有意義なものとなりました。

最後になりましたが、今回の研究大会での発表を進めるにあたり、校長先生、教頭先生をはじめ、ご協力をいただきました全ての教職員の皆様、育友会役員の皆様には、多大なご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



第一小学校

PTA研究発表を終えて

第一小学校PTA 会長 松本 賢一

PTA研究発表を終えてということで、パソコンに向かったが、どうもキーボードをたたくテンポが上がらない。ペンが走らないというのは、こういう状況のことを言うのかもしれない。

しかし冷静に考えて見ると、それも仕方がないことに気付く。何故ならば、今回我々第一小学校PTAは、「まとめ」とは表現していたものの、内容は既存の組織やシステムの改革・改善への取り組みへの「決意表明」を、360名もの関係者の前で発表してしまったからである。早すぎる紀要の提出でも（遅れてすいませんでした。）、当初からここは通過点と位置づけていた。だから、達成感がないのは、あたり前なのかもしれません。ただ研究のまとめとして、終わりが目標に向かってスタートする結果になってしまったことに、全く後悔はありません。当日の当校の発表でも、現況で抱えている問題点をみなさんに赤裸々にご紹介しましたが、PTAに関係する様々な事を見直さなければならない時期に我々（第一単P）はいるのです。

「お前のとこの規模でやるが大変やぞ・・・」・・・大変だけどやるんです。

「本当に、出来るんかいや？」・・・出来るまでやめません。あきらめません。

「もめそ～・・・」・・・痛みを伴う事は覚悟の上です。

「暴走すんなや」・・・大丈夫です、仲間がいます。

関係者（他校友人）？から多数、叱咤激励もいただきました。4つの柱とした、改革・改善の中には明日からできることもあれば、時間がかかるもの色々ありますが、確実に取り組んで行きたいと思っておりますので、今後とも第一小学校PTAにご支援・ご指導のほどよろしく申し上げます。



改革・改善の4つの柱

- 1. 変わる化（組織）**
役員選任のルール化・理事会の必要性の検討その他
- 2. 見える化（広報・情報発信）**
広報誌の充実・メール・ホームページを活用した情報発信その他
- 3. できる化（システム・マニュアル化）**
誰でもできる委員会運営・みんなのできる事業参加・会員へのPTA説明資料の作成その他
- 4. 繋がる化（地域連携）**
PTCAの連携強化・シニア世代との連携の模索・校下組織・町内会組織との相互理解・協力の要請その他

第1回 母親委員会

日時◆平成24年5月25日(金) 午後7時より
場所◆ホテルサンルート小松

平成24年度 母親委員会 事業計画(案)の説明が行われました。ほとんどの方は初対面でしたが、同じような年頃の子どものを持つ母親同士、すぐに話が弾みました。本来なら知り合う機会のない方々と交流ができて、めぐり合いの大切さを感じられる活動だと思います。



第2回 母親委員会

日時◆平成24年6月15日(金) 午後7時より
場所◆第一地区コミュニティセンター

6月15日(金)に第一地区コミュニティセンターにて第2回母親委員会が行われました。約40名の各学校の母親代表の方々が田中先生の講演をお聴きしました。その中での内容をご紹介します。

母親委員会



小松市立芦城小学校
校長 浅野 幸恵

● 身についた「あたりまえ」

「給食の後始末がいつもきちんとできている」とほめられたある担任が、教室で子ども達にそのことを話したところ、子ども達の反応は今一つだったといいます。「そんなことあたりまえやろ。ほめられることかな。」というわけです。

ある全国大会常勝チームの監督が、部活で大切にしていることは「靴や鞆をきちんとそろえておくこと」だそうです。繰り返し言っているうちに普通にできるようになっているといいます。

学校の玄関掃除で専用スリッパを毎日ふいていた小学生が、ちょうど来校した客にさっとスリッパを勧め、大いにほめられたことがあります。その子はあたりまえの感覚で、自然に手が動いたのかもしれません。

禅寺には制中という百日間の修行の期間があるそうです。厳しい修行の日々を送る雲水は、できそうもないと思っていたことも繰り返し続けることによって少しずつ身についてくるといいます。

人は小さい頃からの習慣で普通にやっていることがたくさんありますが、そうなるためには必ず誰かに教えられたり、まわりに手本があったはずで。

まず基本的な生活の習慣を身につけ、集団生活において社会の基本的なルールを知り、さらにマナーやエチケットに広がり、そして人としての心づかいにまで発展していく、このことが自然にあたりまえにできて、人としての美しさが磨かれていくのではないのでしょうか。

そこには、教え導く大人の意図的な営みが必要です。大人の手本が必要です。少しずつの「あたりまえ」を積み上げ、「あたりまえ」のレベルがアップしていけばいいと思います。内面からにじみ出る美しさを子ども達に贈ってあげられたらいいと思います。



尾木ママの教育をもっと知る本
尾木直樹著／(株)ほんの木発行



本業は教育評論家である尾木ママの熱いメッセージを受け止めてください。おすすめです。

母親委員会 広報担当

今年度は私たちが担当します。よろしくお願ひします。

松見 亮子 山田ひろみ
太田智佐子 藤原 瞳



◆テーマ 「未来の宝のために」

◆講師 元小学校校長 田中 恵子氏

田中恵子先生●プロフィール
教師生活38年。荒屋小学校5年間の校長職を最後に退職されました。時に厳しく時に熱く「自分(子ども達)に自信が持てる教育」を実践されていました。現職時代に子どもの育ちを考える中で「環境」の重要性に気づき、身近な「環境への取り組み」(体内と体外)を実践・提唱されています。現在は保育園長の傍ら、今までの経験から環境に対するパネリストの依頼などでご活躍中です。

知恵の継承

日本の伝統・文化を他国の
人々に的確に伝えられるか

早寝早起き：子育ての鉄則

**義務教育終了と共に
自立できる人間**

- ・コミュニケーション能力の重要性
- ・学力だけでなくたくましく生きていく人間
- ・お手伝い

食の安全性

- ・食品添加物の危険性
- ・外食・コンビニなど楽な生活になっていく中、手作り料理の重要性
- ・食べ物で人間の体はできあがる

山本五十六の言葉
『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ』

アンケート

講演会の中でアンケートがありました。正解はありませんが、皆さんも一度考えてみませんか。

(問1) あなたはお子さんがどんな人間に成長してほしいと願っていますか？

- ・これだと思える職を持ち、皆から愛される人。
- ・応用力、解決能力を持てる人。

(問2) あなた自身の興味・関心は、下の3項目で表すとどんな配分になりますか？(衣・食・住)＊3P、2P、1Pで表し、合計が6Pになるようにしてください。

衣 食 住
(2) + (3) + (1) = 6

感想

- 食育は母親のするべき使命。学力向上や努力によって生み出された便利さの代償について考えること。物事を多面にとらえられる様に、様々な経験を積める環境作り。
- 外国のエリートからみた日本人の若者の意見が印象的でした。いろいろな知恵が受け継がれずに分断寸前であることに、恐ろしさを感じました。
- 『やってみせ、言って聞かせて、させてみる』子どもをしかる前には思い出していきたいです。お年寄りの言葉ってウンウンとうなずけます。不思議と・・・。

「早寝早起き朝ごはん運動」について

特別委員会 委員長 道場 幹雄

「早寝早起き朝ごはん運動」も本年度で6年目を迎えます。子ども達が健やかに成長していくためには、適切な運動、バランスのよい食事、十分な休養・睡眠が大切です。しかし、最近の子ども達を見ると基本的な生活習慣が大きく乱れています。こうした今日の子ども達の生活リズムの乱れが、学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されています。このため家庭における食事、睡眠などの乱れを個々の問題とするのではなく、みんなの問題として地域が一丸となり子ども達の基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上を図る取り組みを推進することが必要なのです。

本年度は、今一度「早寝早起き朝ごはん運動」の原点に立ち返り、なぜこの運動が大切なのかを理解していただくために、リーフレットに「睡眠が心と体に与える影響とは?」「朝ごはんを食べないと?」「早起きってなぜ大事なの?」「バランスよく食べよう!」の4つの項目について記載いたしました。また、夏休みに行く生活習慣チェックシートについては、小学校では県生涯学習課作成の「げんきあっぷカード」を活用していただき、中学校については、昨年までのチェック項目を検証、精査した新たなチェックシートを活用していただきました。今後は夏休みだけではなく、普段の生活でも生活習慣を改善するきっかけとしてチェック項目を意識して取り組んでいただきたいと思います。

今年も「早寝早起き朝ごはん運動小松市民大会」を開催いたします。夏休みに募集した「標語」「ポスター・絵画」「わが家の朝ごはん」各部門と「ラジオ体操プラス1運動」をより活発に推進した地域功労者を今年も引き続き表彰させていただきます。そして、後半では“子ども達を取り巻く生活環境を改善するために”という観点から講演会を予定しております。ご家族お誘い合わせのうえ、たくさんのご来場を心よりお待ちしております。

子どもの生活リズムの向上には、保護者の意識や生活スタイルの改善が大切ですが、地域のサポートや学校との連携によってさらに効果をあげることができます。子ども達が、地域や学校とつながりながら社会生活を始めることで、家庭の生活が規則正しくなり、子どもの生活リズムも向上するのだと思います。「大人が変われば、子どもも変わる」という諺があります。もう一度、私たち大人自身が自分の生き方を見つめ直し、子どもを取り巻く環境について真剣に考え、次世代を担う子どものために、地域ぐるみで生活リズムの向上に取り組んでいく必要があります。

小松市立学校PTA連合会では、大人が意識を変え、子ども達のお手本となれるように家庭から地域まで、小松市民全体で「早寝早起き朝ごはん運動」に取り組んで参りたいと思います。関係各位をはじめ多くの皆様方のご厚情に感謝申し上げますと共に、今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

◆日P全国大会報告◆ 小松市立学校PTA連合会 副会長 齋藤 浩

8月24～25日に「いのち ころも ゆめ ～伝えようつなげよう 育くもう～」のテーマのもと、第60回日本PTA全国研究大会が京都の地で、日本全国より約8,000人の方々が参加して開催されました。分科会では、教育評論家の尾木直樹氏をはじめ、声優でありサザエさんのマスオさん役の増岡弘氏、華道家の辻井ミカ氏、元読売巨人軍投手の水野雄仁氏、スポーツキャスター大林素子氏などによるそれぞれの講演会やパネルディスカッションがありました。また、全体会では加藤登紀子氏の講演会があり、参加された方々は、保護者同士の絆を深め、子ども達の健やかな育ちの環境づくりについて学ぶことが出来たと思います。



第一回会長研修会を実施しました

総務委員会 委員長 滝口 尚之

6月14日、第一コミュニティセンターにおいて本年度の第一回会長研修会を実施しました。

鹿田会長の挨拶の後、小松市の教育行政のトップである、坂本和哉教育長にご講演をお願いしました。演題は「今の子どもに求められるもの」でした。小松市の学校教育の現状や、携帯やインターネットと子どもとの関わり方の問題など、興味深く考えさせられるお話しでした。そして、坂本教育長が講演の中で多くのエピソードを交えてお話しいただいたのが、「サマーアドベンチャースクール」のことでした。「サマーアドベンチャースクール」は、「小学5年生～中学2年生までの異なる年齢の子ども」が集まって、「日常から離れて生活する(現在は大杉冒険のとりで)」ことにより、それぞれの役割を分担しながら、「社会性や自主性を養う」ことを目的に行われているそうです。

坂本教育長はその取り組みのスタート時から関わっているそうですが、親から離れての「同世代や異なる学年・学校の仲間との協同生活体験」を通して、「規範意識や協調性、コミュニケーション力などの社会性」を育くむにはとても効果があるとのことでした。「生きるためには、食べること(食事を用意すること)、寝ること(寝床を用意すること)、そして作業を分担し、各自ができることをし、何より協力することの大事さ」を子どもなりに考えてくれると話されていました。

多くの単P会長が、自分の子どももぜひ体験させたいと感じたに違いない、子どもとのかかわりの中から実体験された、説得力ある、とても興味深い講演でした。



親子ふれあい体験バスツアー



「親子ふれあい体験バスツアーを終わって」

～ 食品サンプル作り体験と手焼きせんべい作り ～

平成24年
8月19日(日)

豊かな心を育む委員会 委員長 中家 睦己

今回、小学3年から中学1年までの親子を対象に募集したところ、45組の親子100名の参加を得て、岐阜の郡上八幡（食品サンプル作り）、富山の福光（手焼きせんべい体験）へ行ってきました。

普段、親子のコミュニケーションが少なくなっている中、親子一緒に何かに取り組むこと、体験することを通して親子の絆を深めていただき、何かを感じていただくことを目的に「豊かな心を育む委員会」で企画しました。

食品サンプル作り体験では、親子で1セット（天ぷら、レタス）の製作体験となりました。子どもの手をとって一緒に作る方、子どもの真剣な姿を後ろから見てうなずいている方、上手にできるか心配そうに見ている方、お母さんやお父さんに聞きながら作る子どもなど、親子のほほえましい光景がありました。

郡上八幡の町並み散策では、現地の案内人と一緒に説明を聞きながら歩きました。途中、郡上八幡名物「川の飛び込み」をする子ども達に会い驚きました。橋の上から10メートル下の川に飛び込むのですが、次々と飛び込む現地の子ども達の度胸には感心させられました。水の町ということで用水には鯉も泳いでおり、子ども達は鯉を追っかけたり、さわったりと喜んでいました。

手焼きせんべい焼き体験では、親子で8枚を焼いてもらいました。何回もひっくり返し、反り返らないように焼くのですが、炭火がすごく熱く、ひっくり返しては離れるの繰り返しで皆さん苦労していたようです。出来上がったせんべいは、持ち帰ることも出来ますが、その場で焼きたてを食べることもでき、親子で仲良く食べている光景がありました。今回は岐阜・富山とバスに乗る時間が長い上に東海北陸道はトンネルが多く、あまり車中からの景色は楽しめませんでした。バスガイドさんとのゲームやお話で、子ども達も楽しい時間が過ごせたのではないかと思います。

この企画を実行するにあたって、ご協力いただいた関係者の方々、市P連事務局、委員会のメンバーの皆さんに本当に感謝しております。ありがとうございました。

〈保護者の感想〉

- ・今回の企画は「作る・体験する」ことが多くて、子どものチャレンジする姿などを見ることができました。他の学校のお友達もできて喜んでいました。
- ・久しぶりに娘と2人っきりで楽しく過ごせました。今度は弟も連れて皆で来たいと嬉しそうにしているのを見て、いつもはケンカばかりなのでたまには別々にお出かけも良いなあとリフレッシュできました。
- ・今日初めて参加させて頂きましたが、とても楽しい内容でした。初めて郡上八幡に行きましたが、水を大切に作る町並みがとても魅力的な場所でした。また家族で行ってみたいです。サンプル作りや手焼きせんべい体験などいつもはできないことにも参加できて、とても楽しかったです。
- ・普段では見られない子どもの姿を見られたように思います。仕事などで子どもと一日一緒にいるということが最近無かったので、一緒に色々体験できて、楽しい一日を過ごすことができました。
- ・サンプル作りが魅力的だったので申し込みました。初めてこのツアーに参加しましたが、盛り沢山の内容でとても良かったです。子ども達がとても楽しそうにしている姿を見ていたら、親の私も楽しい気持ちになりました。

〈子どもの感想〉

- ・今日は初めて参加しました。予想以上に沢山の人がいました。一番やってみたかったのは、食品サンプル作りでした。うまく作れるか、たいへんだったけど、とっても楽しかったです。サンプルを展示してある所でとってもうまく作ってあったのですごいと思いました。またサンプル作りをしてみたいです。せんべいもうまく作れたので良かったです。
- ・今日はお父さんと親子バスツアーにこられて良かったです。いつもは家族4人で出かけるけど、今日はじめて2人でのバスツアーでいろいろなことができてよかったです。今度はサンプル作りとおせんべい焼きを家族4人でできたらいいなあとと思います。
- ・郡上八幡町歩きはすごく豊かで自然がいっぱいできれいでした。お昼ごはんもすごくおいしかったです。サンプル作りはレタス・えびフライをうまく作れたのでよかったです。最後のせんべい作りは暑かったけど、いい体験ができたのでよかったです。



「月津の学校」～ 地域一体での子育て～

単Pだより

月津小学校育友会

私達、月津小学校育友会の行事に他校ではあまり見かけない、教育懇話会があります。

教育懇話会とは、地域の各団体の代表者に学校の運営方針や育友会の行事説明をし、各代表者の方々から意見や要望などをお聞きする会となっています。今年度も、5月2日（水）にグランディア小松にて開催しました。懇話会の後には、学校の教職員、育友会の役員、地域の各代表の方々との懇親会が行われ、親交を深めるとても良い機会となっています。懇親会では、懇話会の席上で上がらなかった意見や地域の子育ての先輩方の忠告など、堅苦しくなく聞くことが出来ます。この懇親会で、子育ては学校、保護者、地域が三位一体となって行っていることをあらためて感じます。

また、昨年度は月津校下公民館連合会と合同で教育講演会を開催しました。講師に金沢工業大学の塩谷亨氏をお迎えして、「家庭に於ける子どもの褒め方、しかり方」と題して、ロールプレイング形式での講演をしていただきました。この講演会は公民館連合会からの呼びかけで実現したのですが、このように学校、地域、育友会が一体となって事業を行えるのも、ひとえに地域の方々对学校に対する関心の高さの表れだと思います。

校長先生がある席で、「月津小学校は小松市立月津小学校だけど、地域に愛されて月津の学校になっています。」と言われました。この言葉がまさに月津小学校の姿を表していると思います。

このような地域で子育てが出来ることを光栄に思い、また育友会としても地域の行事に積極的に参加して、それが少しでも月津校下の発展に繋がってほしいと思います。



心の絆 61 キャンペーン募金活動のご報告

昨年の東日本大震災において、日本PTA全国協議会では、組織を挙げて義援金募金活動に取り組みましたところ、皆様よりたくさんの義援金を賜ることができました。ここに感謝いたしますとともに、小松市立小中学校35校の義援金活動の結果をご報告いたします。



小松市小中学校35校 ¥623,966 + 平和堂小松店でキャンペーン ¥16,334 = ¥640,300

平成24年度 市P連組織

顧問 茗荷谷 豊 西出 稔			会長 鹿田 稔夫 (御幸中)		監事 仁多見英明 (月津小) 井田 秀喜 (丸内中)		◎ 委員長 ○ 副委員長 ● 校長				
副会長 横山 康治 (松陽中)		副会長 齋藤 浩 (向本折小) 石川原PTA連合会副会長		副会長 中出 武志 (粟津小)		副会長 金田 仁 (中海中)		会計 中山 恵美 (第一小)			
総務委員会 ◎ 瀧口 尚之 (渡邊小) ○ 吉田 英進 (木場小) 林 健二 (中海小) 西田 清明 (中海小) 山本 誠一 (笑掛小)		広報委員会 ◎ 武部 哲也 (言城小) ○ 中田 浩大 (言城小) 川浦 誠吾 (西尾小) 平田 裕之 (安宅小) 村上 徹 (東陵小)		豊か心を育む委員会 ◎ 中家 睦己 (南都中) ○ 津田 隆志 (荒屋小) 松本 賢一 (荒屋小) 西島 勝之 (犬丸小)		新世代委員会 ◎ 村田 光弘 (坂津中) ○ 深田 博智 (松東中) 木村 保雅春 (御幸中) 大久保 雅彦 (御幸中)			母親委員会 ◎ 東 友起子 (荒屋小) ○ 田中 堂子 (言城小)		特別委員会 ◎ 道場 幹雄 (申小) ○ 齋藤 康治 (副会長) 横山 浩 (副会長) 中出 武志 (副会長) 金田 仁 (副会長) 浅蔵 一華 (副会長)
畑田 大助 (金野小) 岩倉 康賢 (白木小) 遠州 哲臣 (中海小学校長)		仁多見 直樹 (白津小学校長) 竹内 洋 (津代小) 宮野 裕 (白津小学校長)		北 越野 佳和 (言城中) 越野 幸宏 (能美小)		川腰 栄一 (言城中) 犬丸 幹天 (丸内中)		浅野 幸恵 (言城小学校長) 小島 美穂 (丸内中) 北川 靖子 (中海小) 田村 靖子 (荒屋小)		井田 秀喜 (監事) 仁多見英明 (副委員長) 東 友起子 (副委員長) 中山 恵美 (副会長) 出倉 史恵 (副会長) 嘉藤 志保 (副会長)	

編集後記

今回よりページ送りが変わりましたが、いかがでしたでしょうか？ご意見などお聞かせいただけたら幸いです。また、大変お忙しい折に原稿をお願いした皆様、子育てや単P活動のヒントとなる温かい文章をいただきありがとうございました。

広報委員長
武部 哲也